

令和5年度佐伯市学力定着状況調査 結果総括

令和6年2月
佐伯市教育委員会

【用語解説】

◇目標値…学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合。

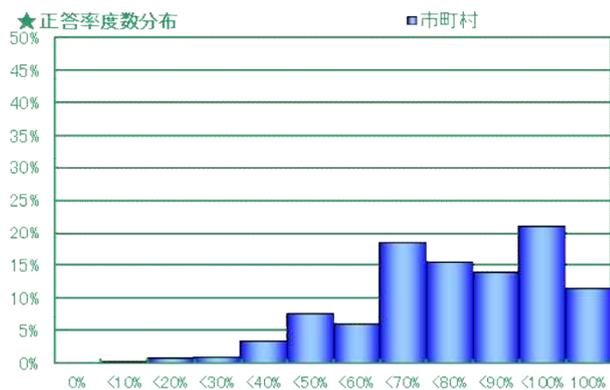
◇正答率…個々の設問について用いる場合は、その設問に正答した児童生徒の割合。

※教科総合・領域・観点などにおけるクラス・学年などの集団データとして用いる場合は、対象となる全設問におけるその集団の正答率の平均値。

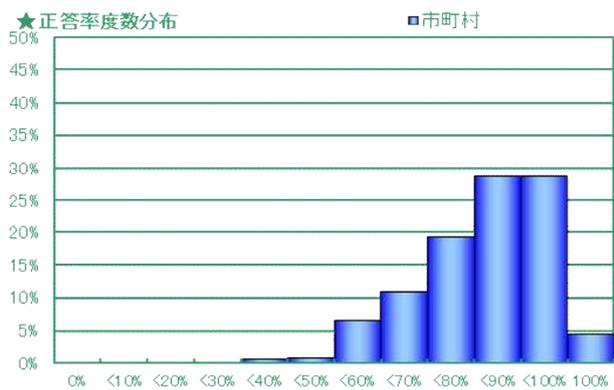
※各学年ごとの結果総括において、目標値及び全国平均を超えた佐伯市の数値には  を施しています。

<小学校1年>

国語



算数

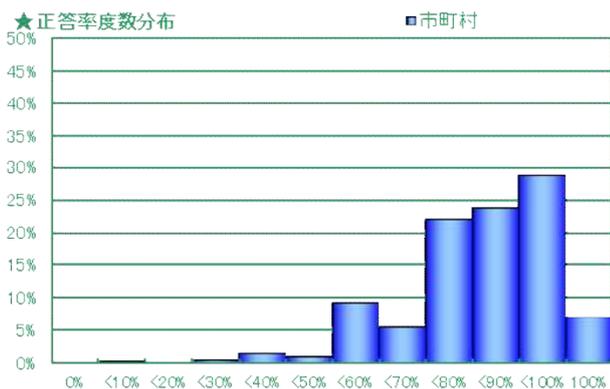


国語・・・70%台～90%台の層に広がった分布である。30%未満の下位層はとても少ない。

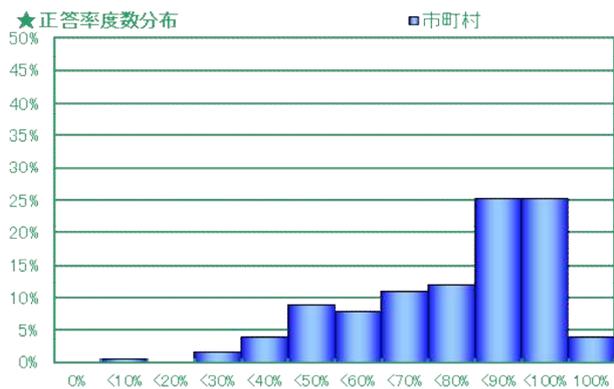
算数・・・80%台～100%台の層が多く、50%未満の層はほとんど見られない。良好な分布となっている。

<小学校2年>

国語



算数

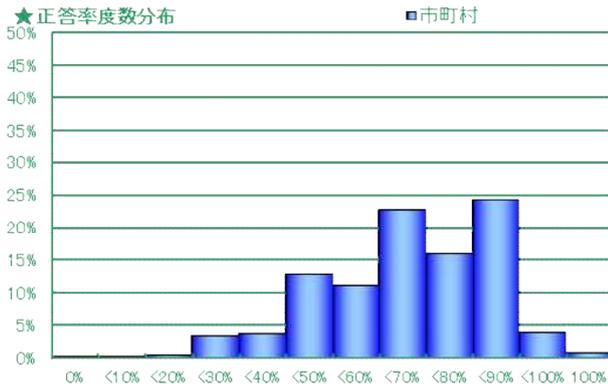


国語・・・80～100%台の上位層が多い分布になっている。30%未満の下位層は少ないが、60%台の層が若干見られる。

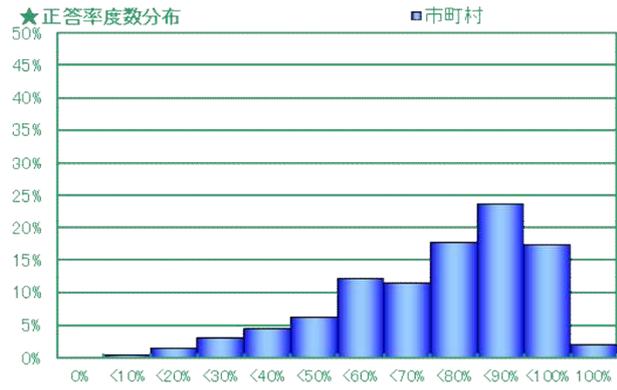
算数・・・90～100%台の層が最も多くなっている。30%未満の下位層は少ないが、50～60%台の層が一定程度見られる。

<小学校3年>

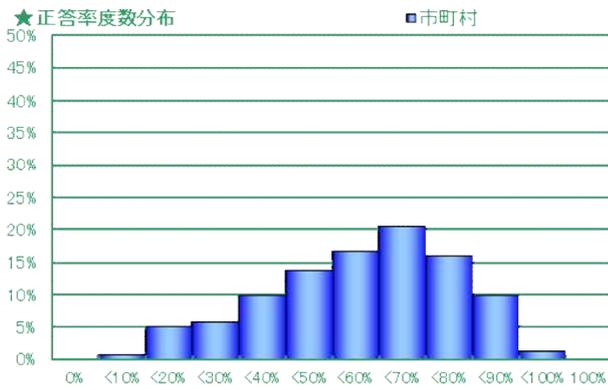
国語



算数



理科



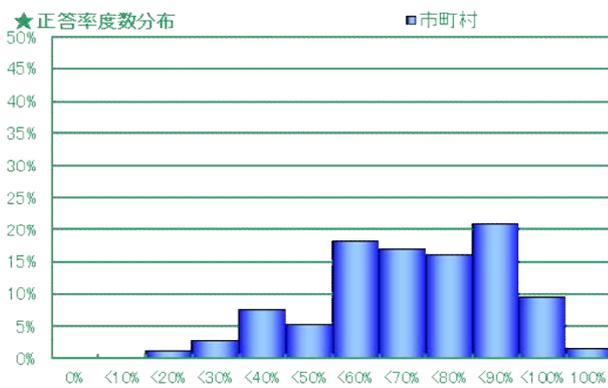
国語・・・90%台の層が最も多くなり、次いで70%台の層が多く見られる。50%～60%台の層が一定程度見られる。

算数・・・90%台が最も多くなり、次いでその前後の層が多く見られる。

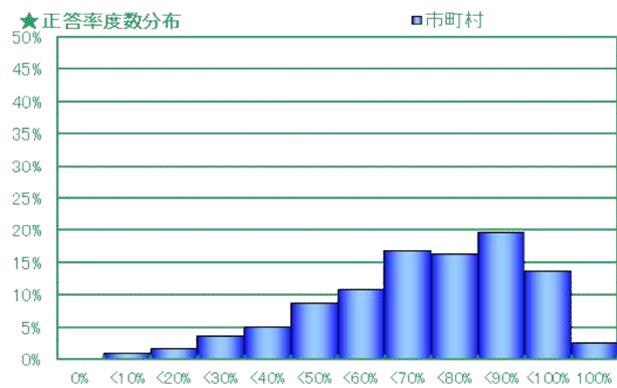
理科・・・70%台が最も多くなり、次いでその前後の層が多く見られる分布である。30%未満の下位層が一定程度見られる。

<小学校4年>

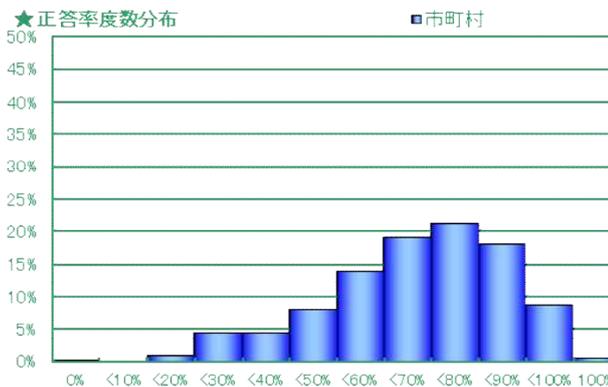
国語



算数



理科



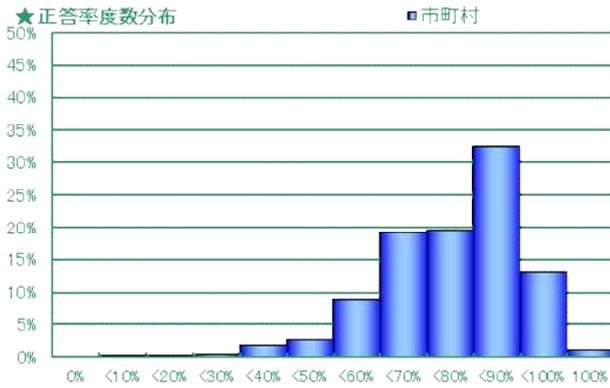
国語・・・90%台の層が最も多いが、ついで、70%台の層が多くなっている。40%以下の層が一定程度見られる。

算数・・・90%台の層が最も多く、ついで70%、80%台の層が多くなっている。

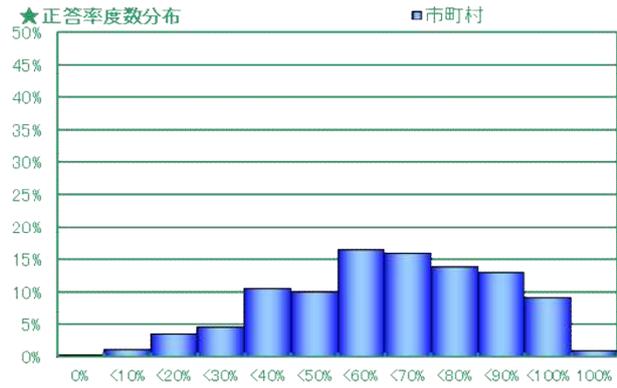
理科・・・80%台の層が多く、次いでその前後の層が多くなっている。40%、30%台の層が一定程度見られる。

<小学校5年>

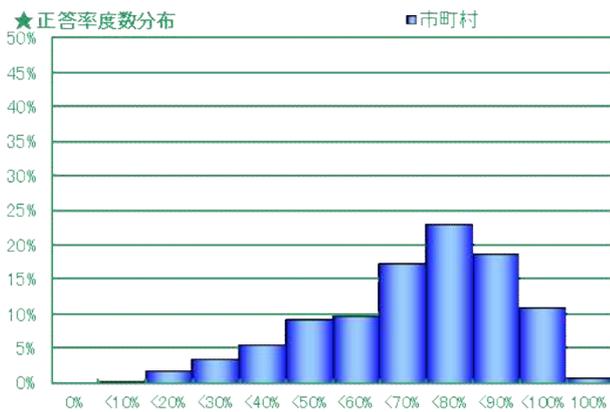
国語



算数



理科



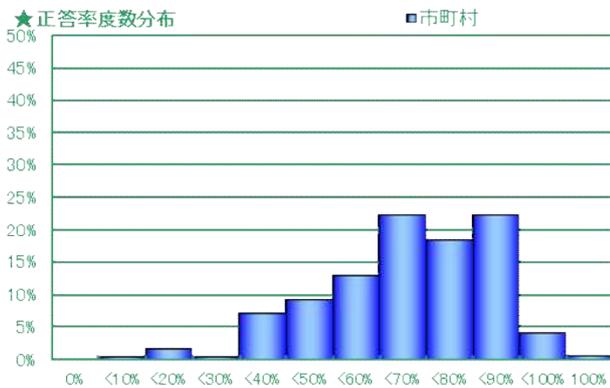
国語・・・90%台の層が突出して多く、ついで80%、70%台の層が多く見られる。30%未満の下位層は少ない。

算数・・・60%台の層が最も多く、中位層が多い分布となっている。また、30%未満の下位層が一定程度見られる。

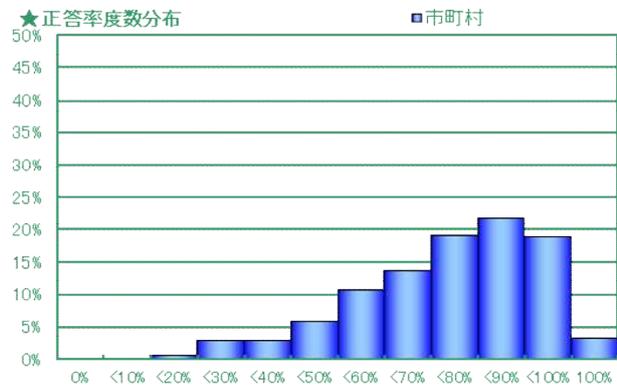
理科・・・80%台の層が最も多く、次いでその前後の層が多くなっている。

<小学校6年>

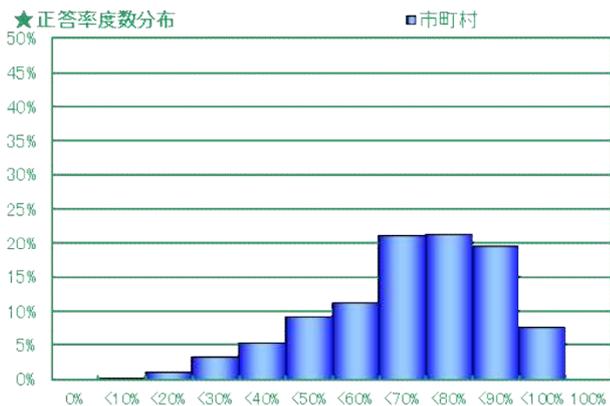
国語



算数



理科



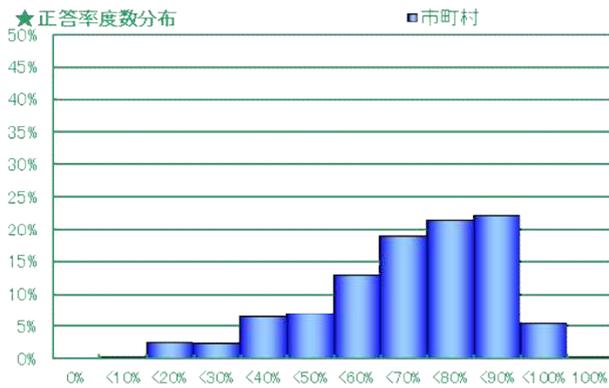
国語・・・70%、90%台の層が多くなっている。30%未満の下位層のなかで、20%台の層が少し多くなっている。

算数・・・90%台の層が多く、ついでその前後の層が多く見られる。30%未満の下位層が一定程度見られる。

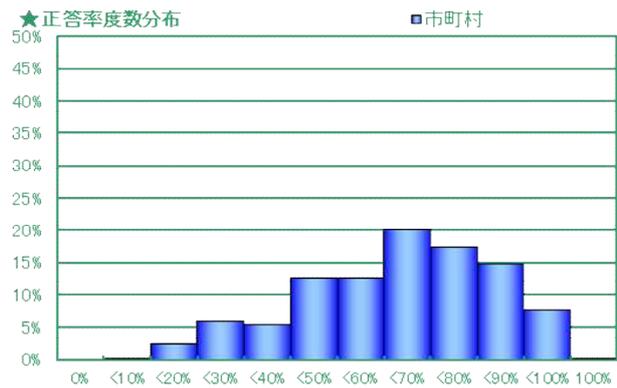
理科・・・70%、80%台の層が多くなっている。30%未満の下位層が一定程度見られる。

＜中学校1年＞

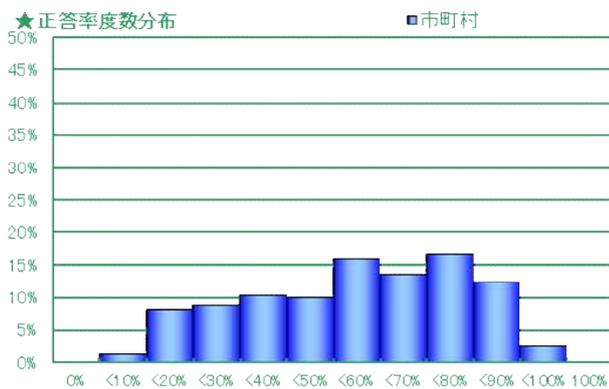
国語



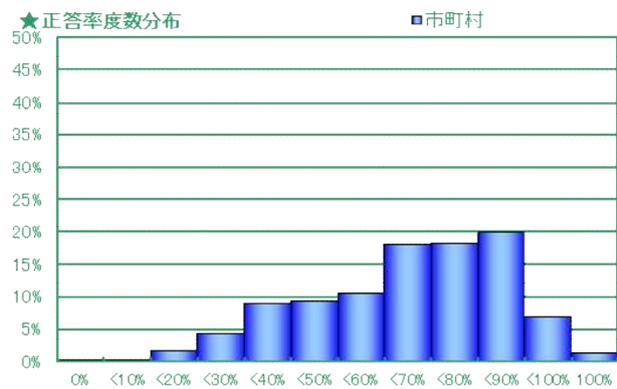
社会



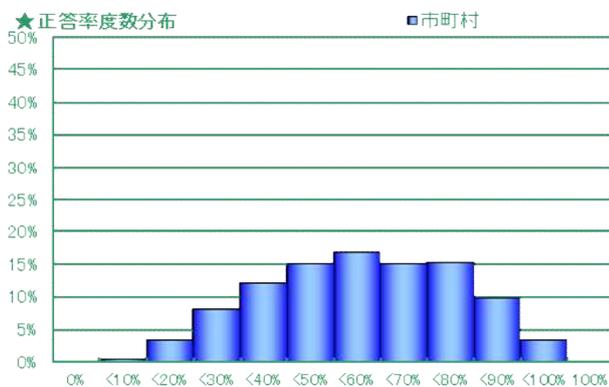
数学



理科



英語



国語・・・90%台の層が多く、ついで80%、70%台の層が多くなっている。30%以下の下位層が一定程度見られる。

社会・・・70%台の層が多く、ついで80%、90%台の層が多くなっている。中位層が一定程度見られ、30%未満の下位層も多くなっている。

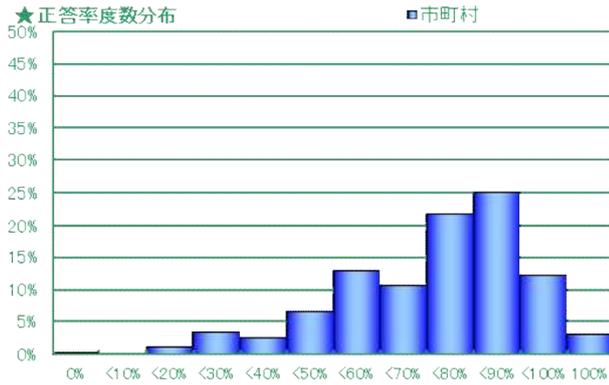
数学・・・80%、60%台の層が多く見られるが、中位層から下位層にかけて一定程度の分布となっており、上位層が少ない。また、20%台の層が多くなっている。

理科・・・90%台の層が多く、ついで80%、70%台の層が多く見られる。中位層から下位層が一定程度見られる。

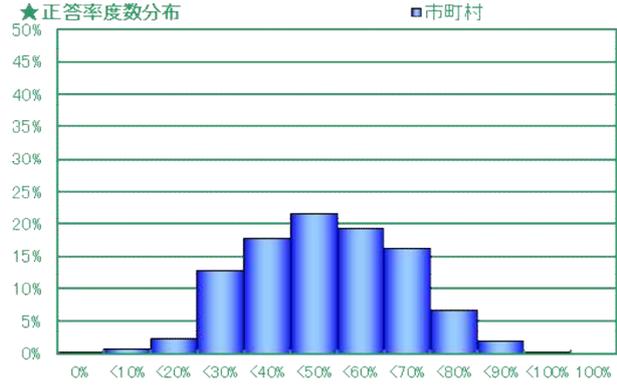
英語・・・60%台の層が最も多く、上位層が少ない分布になっている。30%未満の下位層が多くなっている。

<中学校2年>

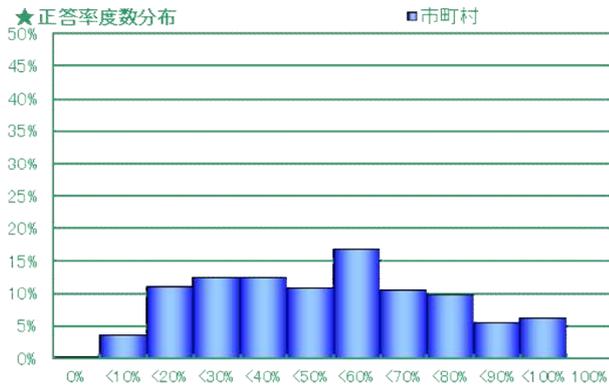
国語



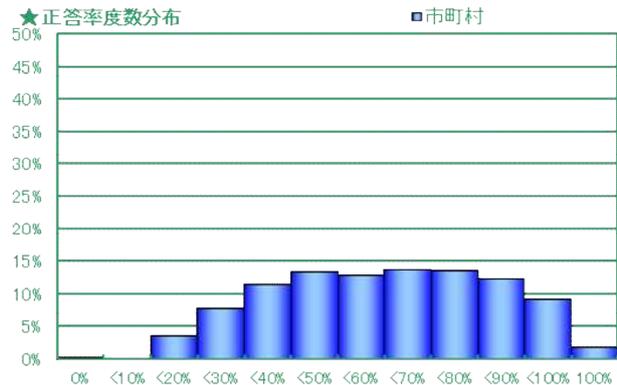
社会



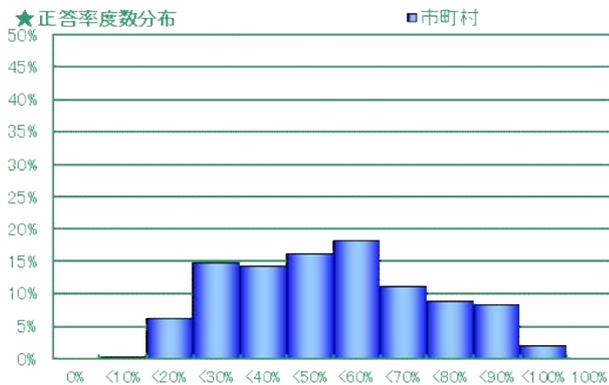
数学



理科



英語



国語・・・90%台、80%台の層が多く、次いで60%台の層が多く見られ、でこぼこした分布になっている。30%以下の下位層が一定程度見られる。

社会・・・50%、60台の中位層が多くなっている。上位層が少なく、下位層が多い分布となっている。

数学・・・60%台の層が多いなだらかな分布になっており、広く一定程度の分布が見られる。上位層が少なく、30%未満の下位層が多くなっている。

理科・・・50%、70%台の層が多く、広く一定程度の分布が見られ全体的になだらかな分布になっている。30%未満の下位層が一定程度見られる。

英語・・・60%台の層が多く、ついで50%台の層と中位層が多くなっている。上位層が少なく、30%未満の下位層が多くなっている。

令和5年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜小学校1年＞

国語				問題の内容別正答率				<p>＜結果概況＞</p> <p>○教科の正答率は、活用が全国平均を上回った。</p> <p>○領域別正答率は、「情報の扱い方」「書くこと」において全国平均を上回った。</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>問題の内容別に全国平均と比較すると、「せつめい文をよみとる」の内容で全国平均を下回った。文章中の重要な語句を選び、6文字で記述する問題の無回答率は10.6であった。「読むこと」においては、重要語句や指示語に目を向けさせながら、情報の丁寧な取り出しを目指すとともに、登場人物の心情に迫るために着目する語句の選び方等の指導が必要である。</p> <p>また、引き続き、尋ねたり応答したりするなど、必然性のあるグループ活動を位置づけ、日常の活動のなかで表現活動を意図的に位置づけながら、文を書く活動と関連させた指導が求められる。</p>		
佐伯市	目標値	全国平均	佐伯市		目標値	全国平均				
教科の正答率	全体	75.7	73.7		74.8	はなしをききとる	77.1		80.0	78.5
	基礎	82.0	81.0		83.3	かん字をよむ	86.8		83.3	85.8
	活用	63.7	60.0		58.9	ことばの学しゆう	83.7		79.2	83.8
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	86.8	83.1		88.1	ものがたりをよみとる	61.7		63.3	62.5
	情報の扱い方	61.9	56.7		57.3	せつめい文をよみとる	66.7		70.0	68.3
	話すこと・聞くこと	71.9	72.0		73.6	はなしをききとる	64.0		60.0	66.4
	書くこと	77.7	70.0		66.9	文しようをかく	77.7		70.0	66.9
	読むこと	64.2	66.7		65.4					

算数				問題の内容別正答率				<p>＜結果概況＞</p> <p>○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を上回った。</p> <p>○領域別正答率は、「数と計算」「図形」で全国平均を上回ったが、「測定」で下回った。</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>問題の内容別に全国平均と比較すると、「ながさ・かさ」の内容で全国平均を下回った。特に、長さの異なるテープの長さを直接比較する問題の正答率は62.8で、目標値80に対して約17ポイント低かった。学習したことが生活の中に活かされるよう、長さやかさの量感を育てたり、量の比較の方法を見い出したりする機会を設定する必要がある。</p> <p>また、条件の中から「6+7」の式になる場面を記述する問題の無回答率は8.2と高かった。式や絵、文などの与えられた情報から必要な情報を取り出し、作問して表現する(書く)力を育成する必要がある。</p>		
佐伯市	目標値	全国平均	佐伯市		目標値	全国平均				
教科の正答率	全体	81.9	76.6		77.7	20までのかず	88.3		82.1	83.3
	基礎	86.5	82.3		83.8	たしざん	88.2		80.0	82.4
	活用	62.2	52.1		51.7	ひきざん	77.8		70.0	72.1
領域別正答率	数と計算	82.8	76.1		77.7	3つのかずのけいざん	72.4		71.3	70.4
	図形	76.0	72.5		71.3	かたち	76.0		72.5	71.3
	測定	77.8	82.5		80.9	ながさ・かさ	77.8		85.0	84.4
						なんじなんじはん	77.7		80.0	77.5

令和5年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜小学校2年＞

国語				問題の内容別正答率				<p>＜結果概況＞</p> <p>○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。</p> <p>○領域別正答率は、「言葉の特徴や使い方」以外の領域で全国平均を上回った。</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>問題の内容別に全国平均と比較すると、「漢字を読む」の正答率は87で、全国平均を6ポイント下回った。「作り方を説明する」の内容で、説明の最後に付け足す言葉を記述する問題の無回答率は14.8であった。引き続き、尋ねたり応答したりするなど、必然性のあるグループ活動を位置づけ、日常の活動のなかで表現活動を意図的に位置づけながら、文を書く活動と関連させた指導が求められる。</p> <p>「聞くこと・話すこと」及び「読むこと」においては、重要語句や指示語に目を向けさせながら、情報の丁寧な取り出しを目指すとともに、登場人物の心情に迫るために着目する語句の選び方等の指導が必要である。</p>		
佐伯市	目標値	全国平均	佐伯市		目標値	全国平均				
教科の正答率	全体	81.1	75.0		79.3	話を聞き取る	84.8		80.0	81.6
	基礎	84.0	80.7		83.9	漢字を読む	87.0		90.0	93.3
	活用	76.2	65.6		71.5	漢字を書く	89.9		83.3	90.5
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	81.3	80.0		83.6	言葉の学習	73.9		70.0	73.0
	情報の扱い方	75.7	63.3		72.3	物語を読み取る	80.7		71.7	79.2
	話すこと・聞くこと	73.2	68.0		71.0	説明文を読み取る	85.0		76.7	83.4
	書くこと	85.6	71.7		72.2	作り方を説明する	56.0		50.0	55.2
	読むこと	82.9	74.2		81.3	文章を書く	85.6		71.7	72.2

算数				問題の内容別正答率				<p>＜結果概況＞</p> <p>○教科の正答率は、活用が全国平均を上回った。</p> <p>○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を下回った。</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>問題の内容別に全国平均と比較すると、「1000までの数」と「たし算」の内容で全国平均を下回った。特に、繰り上がりのある「2けた+2けた」「3けた+2けた」の正答率が目標値より5ポイント以上下回っている。スキルタイムや家庭学習等において、定着・習熟の時間を設定する必要がある。</p> <p>また、長さの内容で、高さが異なる積み木を使った比べ方が間違っている理由を説明する問題の正答率は32.8、無回答率は13.0であった。間違えている理由の根拠となる言葉を記述するものであったが、普段から根拠を明確にして自分の考えを表現する力を付けていく必要がある。その際、正解の根拠だけでなく、なぜ間違えているのかという視点でも根拠を考える活動を取り入れていく必要がある。</p>		
佐伯市	目標値	全国平均	佐伯市		目標値	全国平均				
教科の正答率	全体	75.0	71.0		73.1	1000までの数	88.0		83.6	88.4
	基礎	81.7	77.2		79.5	たし算	69.2		69.2	69.9
	活用	52.5	50.0		51.3	ひき算	71.7		70.0	70.7
領域別正答率	数と計算	76.9	74.4		76.8	かけ算	77.6		74.2	77.0
	測定	69.7	61.1		62.4	長さ・かさ	65.1		58.3	57.5
						時刻と時間	79.0		66.7	72.2

令和5年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜小学校3年＞

国語				問題の内容別正答率					
	佐伯市	目標値	全国平均			佐伯市	目標値	全国平均	
教科の正答率	全体	65.1	67.6		68.4	話し合いの内よ うを聞き取る	61.6	65.0	63.0
	基礎	71.2	73.8		75.8	漢字を読む	86.2	86.7	91.5
	活用	52.2	54.4		52.8	漢字を書く	65.2	76.7	78.5
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	69.7	75.5		77.5	言葉の学習	63.1	70.0	71.1
	情報の扱い方	44.3	53.3		49.0	物語の内容を読み取る	80.2	76.7	84.7
	話すこと・聞くこと	56.3	59.0		56.9	説明文の内容 を読み取る	39.6	51.7	43.2
	書くこと	70.2	60.0		62.2	話し合いをもと に話を聞く	48.5	50.0	47.9
	読むこと	59.9	64.2		63.9	文章を書く	70.2	60.0	62.2

＜結果概況＞
 ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を下回った。
 ○領域別正答率は、「文章を書く」では全国平均を上回ったものの、「漢字を読む」「漢字を書く」「言葉の学習」では全国平均を下回った。

＜課題と対策＞
 問題の内容別に全国平均と比較すると、多くの内容で全国平均を下回った。なかでも、「説明文の内容を読み取る」では、文章の中から中心となる語や文を要約する問題の正答率は16.6、無回答率は10.9であった。「書くこと」においては、複数の条件を付けて書かせる活動や、実生活で使うことを前提とした語彙指導を授業等に意図的に位置づける必要がある。さらに、説明文の学習においては、段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述をもとに考える活動を積み重ねる必要がある。
 引き続き、漢字を正しく読み、正確に書く力の習得に向けて、家庭学習等における基礎練習に加え、各教科のノート等、実際の場面で使う習慣を身に付けさせる必要がある。

算数				問題の内容別正答率					
	佐伯市	目標値	全国平均			佐伯市	目標値	全国平均	
教科の正答率	全体	71.1	68.4		69.9	10000より大きい数	85.1	78.8	83.0
	基礎	78.9	76.6		78.5	たし算・ひき算	75.5	80.0	79.2
	活用	59.7	56.5		57.5	かけ算	66.0	66.7	67.0
領域別正答率	数と計算	70.2	68.1		69.5	わり算	65.2	61.7	63.0
	図形	66.2	65.0		65.8	円と球	66.2	65.0	65.8
	測定	76.8	71.4		73.7	長さ・重さ	78.7	76.3	75.8
						時ごとと時間	74.3	65.0	70.9

＜結果概況＞
 ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を上回った。
 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。

＜課題と対策＞
 問題の内容別に全国平均と比較すると、「10000より大きい数」と「たし算・ひき算」の内容で、全国平均を下回った。特に、4けた－3けた＝3けた(波及的繰り下がりあり)の問題の正答率は68.1で、目標値75を約7ポイント下回った。スキルタイムや家庭学習等において、定着・習熟を図る必要がある。
 わり算の余りのある等分除の問題で、解に至った理由を言葉や数、式を使って説明する問題の正答率は24.3、無回答率は46.3であった。日頃の授業の中で、言葉・数・図・式を使って順序立てて説明する力を育成するための活動を意図的に組み込んで習熟をはかる必要がある。

理科				問題の内容別正答率					
	佐伯市	目標値	全国平均			佐伯市	目標値	全国平均	
教科の正答率	全体	56.5	56.7		58.5	身近なしぜんのかんさつ	62.7	60.0	62.3
	基礎	62.8	62.1		64.4	植物の育ち方	55.1	56.3	54.3
	活用	39.9	42.5		42.9	こん虫の育ち方	35.4	40.0	41.3
領域別正答率	物質・エネルギー	54.9	55.6		58.3	こん虫のからだのつくり	72.3	70.0	72.9
	生命・地球	57.1	57.1		58.6	太陽と地面のようす	59.9	59.2	61.6
						光のせいしつ	45.4	48.8	51.6
						風やゴムのはたらき	64.4	62.5	65.0

＜結果概況＞
 ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を下回った。
 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を下回った。

＜課題と対策＞
 問題の内容別に全国平均と比較すると、多くの内容で全国平均を下回った。なかでも、「光のせいしつ」では、6.2ポイント全国平均を下回った。鏡で跳ね返した日光と温度を調べた2つの実験の共通点と相違点を記述する問題の正答率は16.5、無回答率は12.3であった。さらに、どのようにすれば鏡で跳ね返した日光の温度をあげられるのか新しい実験方法を記述する問題の無解答率は16.3と高かった。実験や観察を行う授業においては、目的、検証方法、手順について、教師が全てを提示するのではなく、問題解決にむけて何をすればよいのか、どのようなことを行えばよいのか子ども達が考える授業を行うことが大切である。

令和5年度佐伯市学力定着状況調査結果総括<小学校4年>

国語				佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「我が国の言語文化」及び「読むこと」の領域で、全国平均を下回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、「説明文の内容を読み取る」の内容で全国平均を2.8ポイント下回った。発表原稿にすすめる理由や調べてわかったことを記述する問題で、正答率は27.7、無回答率が17.3であった。 「読むこと」の学習においては、全文掲示等の手法を取り入れながら、段落相互の関係を捉えたり、情報と情報の関係性を把握したりしながら筆者の考えを読み解く活動を位置づける必要がある。「話すこと」や「書くこと」の学習においては、理由や事例を挙げながら考えを構築する体験を重ねる必要がある。
教科の正答率	全体	67.1	63.8	64.2	話し合いの内容を聞き取る	59.8	55.0	53.7			
	基礎	72.4	68.5	68.7	漢字を読む	88.2	85.0	87.0			
	活用	57.1	55.0	55.8	漢字を書く	70.6	61.7	65.8			
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	77.8	72.0	73.0	言葉の学習	80.1	73.0	76.7			
	情報の扱い方	41.8	46.7	41.4	物語の内容を読み取る	77.3	70.0	77.2			
	我が国の言語文化	84.4	80.0	90.8	説明文の内容を読み取る	46.1	51.7	48.9			
	話こと・聞くこと	56.9	55.0	52.7	調べてわかったことを発表する	52.7	55.0	51.3			
	書くこと	53.4	53.8	46.5	文章を書く	53.4	53.8	46.5			
	読むこと	61.7	60.8	63.1							

算数				佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「数と計算」と「図形」で全国平均を上回ったが、「変化と関係」「データの活用」で全国平均を下回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、「簡単な場合についての割合」の内容で全国平均を下回った。 小数の示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って小数の減法を整数の減法に直す問題の正答率は31.1であった。示された考えと同様の考え方で、計算の仕方を説明する力を育成するような活動を、意図的に取り入れていく必要がある。 また、折れ線グラフと棒グラフをもとに目的にあう月を求める問題の正答率は22.2、無回答率は41.3であった。2つの情報から条件に合う内容を判断し、その理由について説明を行うことに課題がある。複数の情報から必要な情報を取り出し、それらを関連付けて、目的に応じた文章で表現する力を付けていく必要がある。
教科の正答率	全体	67.7	64.2	64.8	億と兆・概数の表し方	80.0	75.0	78.3			
	基礎	71.6	68.9	69.6	わり算	63.7	57.0	58.2			
	活用	61.5	56.7	57.3	小数	59.6	59.0	59.6			
領域別正答率	数と計算	70.4	65.9	68.0	計算のきまり	76.6	70.0	72.2			
	図形	67.0	65.0	62.9	垂直・平行と四角形	62.2	61.7	57.5			
	変化と関係	75.4	71.7	75.8	角の大きさ	71.8	68.3	68.3			
	データの活用	49.0	50.0	45.4	簡単な場合についての割合	75.4	71.7	75.8			
					折れ線グラフ	49.0	50.0	45.4			

理科				佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を下回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を下回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、多くの内容で全国平均を下回った。なかでも、「1年間の植物の成長」は全国平均を6ポイント下回った。 「電気のはたらき」の内容で、簡易検流計のつなぎ方の誤りを記述する問題の正答率は15.7、無回答率は16.4であった。実験器具の正しい使い方を理解させるとともに、子ども達が実験装置を操作する授業を大切にしていきたい。 「物の体積と力」の内容で、エアポットからお湯がでる仕組みについて、空気と水の性質をもとに説明する問題では、無回答率が15.4であった。とじこめた空気と水の性質を調べる実験を行い、その結果だけを取り上げた授業を行うのではなく、空気と水の性質を使った道具があることなど、学習内容と日常生活が関連していることを授業の中で扱うことが大切である。
教科の正答率	全体	65.3	64.2	66.9	1年間の植物の成長	55.5	58.3	61.5			
	基礎	73.2	71.6	75.1	1年間の動物の様子	69.7	72.5	73.6			
	活用	43.8	43.8	44.2	天気の様子と気温	78.3	76.3	80.5			
領域別正答率	物質・エネルギー	50.4	52.2	53.0	電気のはたらき	51.3	55.0	55.5			
	生命・地球	71.7	69.3	72.8	動物の体のつくりと運動	79.0	73.3	76.6			
					月と星	71.8	69.2	72.8			
					物の体積と力	34.6	35.0	33.6			
					物の体積と温度	72.5	72.5	77.2			
					雨水の行方と地面の様子	73.2	65.0	69.5			

令和5年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜小学校5年＞

国語								
	佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均	
教科の正答率	全体	75.3	68.3	69.9	話し合いの内容を聞き取る	73.4	65.0	69.6
	基礎	80.1	72.8	75.2	漢字を読む	95.7	90.0	93.8
	活用	64.6	58.1	57.7	漢字を書く	83.4	66.7	75.5
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	80.1	72.7	75.0	言葉の学習	64.3	63.0	61.9
	情報の扱い方	43.0	40.0	37.2	物語の内容を読み取る	75.5	71.7	74.4
	我が国の言語文化	53.3	55.0	50.7	説明文の内容を読み取る	64.4	60.0	60.6
	話すこと・聞くこと	73.4	65.0	69.6	ポスターを作る	64.2	55.0	58.3
	書くこと	76.6	66.7	64.1	文章を書く	82.8	72.5	67.1
	読むこと	69.9	65.8	67.5				

問題の内容別正答率

＜結果概況＞
 ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を上回った。
 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。

＜課題と対策＞
 問題の内容別に全国平均と比較すると、「文章を書く」において、全国平均を15.7ポイントも上回った。「言葉の学習」の内容で、文章の中の誤字を正しく書き直す問題で無回答率は11.7であった。漢字についても、「まちがいがし」や「ひらがな文章を漢字になおそう」等、実生活で使えるようになることを意識した活動を仕組むことが求められる。また、「音読み・訓読み」「修飾語・被修飾語」「敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）」等については、教科書で扱われる時間のみで終わることなく、国語科用語として意識させ、日常的に使用する機会を設ける必要がある。
 「読むこと」においては、全文掲示等の手法を取り入れながら、段落相互の関係を捉えたり、情報と情報の関係性を把握したりする等、登場人物の心情や筆者の考えを読み解く活動を位置づける必要がある。

算数								
	佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均	
教科の正答率	全体	60.5	60.6	58.3	整数のなかま分け	70.1	75.0	76.4
	基礎	66.4	66.6	66.4	小数のかけ算・わり算	58.4	55.9	54.7
	活用	45.9	46.1	38.5	分数と小数	71.2	66.7	72.3
領域別正答率	数と計算	63.2	62.1	62.6	分数のたし算・ひき算	67.4	70.0	70.6
	図形	67.2	68.3	65.7	合同	70.4	67.5	68.0
	変化と関係	43.3	51.7	39.1	図形の角	73.1	67.5	68.1
	データの活用	46.7	45.0	35.3	体積	58.0	70.0	61.1
					単位数あたりの大きさ、比例	43.3	51.7	39.1
					平均	46.7	45.0	35.3

問題の内容別正答率

＜結果概況＞
 ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を下回った。
 ○領域別正答率は、「数と計算」「データの活用」で全国平均を上回ったが「図形」「変化と関係」で全国平均を下回った。

＜課題と対策＞
 問題別に全国平均と比較すると、「整数のなかま分け」「分数と小数」「分数のたし算・ひき算」「体積」の内容で全国平均を下回った。なかでも、最小公倍数を使って電車が次に同時に発車する時刻を求める問題では、正答率は55.5、目標値を10ポイント下回った。また、1人あたりのたたみの数やたたみ1枚あたりの人数から、どちらの部屋が混んでいるかを説明する問題も、正答率は17.8であった。習得した知識のうち、どれを使えば日常生活における課題を解決することができるのか判断する力を付けていく必要がある。

理科								
	佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均	
教科の正答率	全体	66.1	63.8	66.3	天気の変化	60.2	62.9	63.6
	基礎	67.0	67.4	69.4	植物の発芽と成長	65.2	61.7	63.7
	活用	64.2	55.6	58.9	魚のたんじょう	60.5	55.0	58.0
領域別正答率	生命・地球	66.1	63.8	66.3	植物の花のつくりと美	73.6	71.3	74.1
					流れる水のはたらき	77.4	69.2	74.0
					けんび鏡の使い方	56.7	61.7	62.8

問題の内容別正答率

＜結果概況＞
 ○教科の正答率は、活用で全国平均を上回った。
 ○領域別正答率は、全国平均を下回った。

＜課題と対策＞
 問題の内容別に全国平均と比較すると、3つの内容で全国平均を下回った。なかでも、「顕微鏡の使い方」では、6.1ポイント全国平均を下回った。顕微鏡のピントを合わせ方を解答する問題の正答率は38.8、2つのレンズの倍率を求める問題の正答率は57.1であった。実験器具など正しい器具の扱い方を理解させることが大切である。
 「植物の発芽と成長」では、ねぎに土寄せを行う理由を植物の成長と日光の関係から記述する問題で無解答率が9.0であった。日光の有無により植物の成長に差ができることを利用した野菜栽培があることなど、学習内容と日常生活を関連づけていくことが大切である。

令和5年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜中学校1年＞

国語				佐伯市	目標値	全国平均					佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞		
教科 の 正 答 率	全体	66.0	57.3	62.0	問題 の 内 容 別 正 答 率	話し合いの内容を聞き取る	88.2	80.0	87.7	○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。						
	基礎	67.4	58.2	62.9		漢字を読む	69.2	66.7	70.7	＜課題と対策＞						
	活用	63.3	55.6	60.2		漢字を書く	54.5	53.3	56.1	問題の内容別に全国平均と比較すると、6つの領域で全国平均を上回ったが、「漢字を読む」「漢字を書く」領域については、全国平均を下回った。漢字の読み書きについては、小学校で学習した漢字を書く問題の無解答率が高く、正答率も低くなっていることから、漢字を書く力の定着に向けた時間の確保とともに、日常的に漢字を使用する機会を設け見取っていく必要がある。						
領域 別 正 答 率	言葉の特徴や使い方	61.2	56.1	59.7		文法・語句に関する事項	56.3	43.8	45.6	また、情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題の正答率は39.6、無回答率が10.6であった。目的に応じて情報を取り出し、情報と情報の関係について理解をして文章の構成を考えたり、根拠を明らかにしながら自分の考えが伝わるように文章を書く活動の充実を図る必要がある。						
	情報の扱い方	43.6	40.0	40.1		説明文の内容を読み取る	54.4	48.3	51.8							
	我が国の言語文化	45.8	30.0	25.4		文学作品の内容を読み取る	77.0	68.3	75.4							
	話すこと・聞くこと	88.2	80.0	87.7		調べたことをもとにレポートを書く	54.5	48.3	53.3							
	書くこと	65.7	52.1	57.8		文章を書く	74.2	55.0	61.2							
読むこと	65.7	58.3	63.6													
社会				佐伯市		目標値	全国平均					佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞	
教科 の 正 答 率	全体	61.1	58.3	58.8	問題 の 内 容 別 正 答 率	世界の姿	59.8	57.5	55.8	○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、地理・歴史とともに全国平均を上回った。						
	基礎	62.5	60.0	59.9		日本の姿	60.5	53.3	53.3	＜課題と対策＞						
	活用	57.3	53.8	55.7		世界各地の人々の生活と環境	63.9	65.0	64.2	問題の内容別に全国平均と比較すると、「世界各地の人々の生活と環境」及び「飛鳥時代～平安時代」以外の内容は全国平均を上回った。						
領域 別 正 答 率	地理	62.6	58.3	58.5		世界の諸地域	65.4	58.0	60.4	「飛鳥時代～平安時代」の内容で、空海が開いた宗派と寺院の組み合わせを選択する問題の正答率は25.2で、全国平均を17.7ポイントと大きく下回った。歴史的事象や人物と、その内容や資料(画像)、地図、年代など、関連する必要な情報を結び付ける取り組みの充実が必要である。						
	歴史	59.6	58.3	59.1		古墳時代まで	64.8	60.8	60.2	奈良時代の人々の負担について、複数の資料をもとに考察し、表現する問題では、無回答率が17.3と高かった。資料から必要な情報を取り出し、文章で表現する活動を設定していく必要がある。						
						飛鳥時代～平安時代	56.1	56.7	58.3							
数学				佐伯市		目標値	全国平均					佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞	
教科 の 正 答 率	全体	54.4	54.1	51.4		問題 の 内 容 別 正 答 率	正の数・負の数	67.9	65.7	63.7	○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。					
	基礎	60.4	59.8	57.1	文字式		46.8	46.7	41.8	＜課題と対策＞						
	活用	39.6	40.0	37.3	1次方程式		50.8	50.6	48.1	問題の内容別に全国平均と比較すると、すべての内容で全国平均を上回った。						
領域 別 正 答 率	数と式	56.5	55.5	52.9	比例・反比例		50.1	51.1	48.5	「比例・反比例」の内容で、合計の個数の、1個の重さの違いによる差を数学的に説明する問題の正答率は11.0、無回答率が41.0であった。また、「1次方程式」の内容で、プランターが隙間なく並べられない理由を方程式を使って説明する問題の無回答率は32.4であった。具体的な事象の中にある数量関係を見いだすことや、文字を用いて数量の関係を式に表すこと、数量の関係や法則を数学的に解釈し考察することを、文章で表現する指導をより充実させていく必要がある。						
	関数	50.1	51.1	48.5												
理科				佐伯市	目標値	全国平均					佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞		
教科 の 正 答 率	全体	64.6	60.5	60.8	問題 の 内 容 別 正 答 率	植物の分類	62.5	55.0	54.0	○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。						
	基礎	63.6	62.1	60.4		動物の分類	86.2	81.3	81.5	＜課題と対策＞						
	活用	66.7	57.2	61.5		身の回りの物質とその性質	61.5	58.3	60.9	問題の内容別に全国平均と比較すると、多くの内容で全国平均を上回った。						
領域 別 正 答 率	エネルギー	72.3	56.7	61.5		気体の性質	63.1	65.0	62.7	「植物の分類」の内容で、双眼実体顕微鏡の使い方や解答する問題は、正答率が28.4であった。また、「水溶液の性質」の内容で、溶解度を解答する問題は正答率23.4であった。学習内容における実験用具の使い方や専門的な用語の正しい理解とその定着をはかることが大切である。						
	粒子	58.1	58.0	57.8		水溶液の性質	52.2	53.8	54.1	「物質の状態変化」の内容で、蒸留を行う目的を記述する問題は無解答率が14.7であった。実験の目的や方法について、文章で記述したり説明したりすること、仮説を基にした実験の構想を行うなどの活動を充実させていく必要がある。						
	生命	72.0	65.5	65.0		物質の状態変化	56.4	55.0	54.5							
						光の性質	72.3	56.7	61.5							
英語				佐伯市		目標値	全国平均					佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞	
教科 の 正 答 率	全体	55.7	54.4	54.2		問題 の 内 容 別 正 答 率	リスニング(内容理解)	91.4	86.7	92.0	○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。					
	基礎	59.8	56.9	58.0	リスニング(対話文の応答)		44.9	46.3	42.9	＜課題と対策＞						
	活用	47.3	49.0	46.3	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)		60.5	65.0	63.2	問題の内容別に全国平均と比較すると、6つの領域で全国平均を上回ったが、「リスニング(内容理解)」「リスニング(さまざまな英文の聞き取り)」「語形・語法の知識・理解」「長文の読み取り」領域については、全国平均を下回った。						
領域 別 正 答 率	聞くこと	64.3	63.8	63.9	語形・語法の知識・理解		59.3	58.8	59.5	「リスニング(対話文の応答)」の内容で、対話から必要な情報を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題では無解答率が31.8であった。授業者と生徒、生徒と生徒が対話をしながら既習事項の復習や新出文法の習得を行う指導の充実を図る必要がある。また対話練習から読む活動、書く活動につなげる等、複数の領域を関連づける総合的な指導を行う必要がある。						
	読むこと	54.0	53.6	53.9	語彙の知識・理解		87.5	82.5	84.9							
	書くこと	50.9	47.2	46.2	さまざまな英文の読み取り		53.9	52.5	52.6							
					長文の読み取り		32.0	35.0	34.1							
					単語の並べ替えによる英作文		48.6	47.5	47.4							
				場面に応じて書く英作文	47.6		35.0	34.9								
				3文以上の英作文	56.2		55.0	52.2								

令和5年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜中学校2年＞

国語				佐伯市			目標値			全国平均						佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	71.4	63.5	67.8	問題 の 内 容 別 正 答 率	話の内容を聞き取る	75.4	68.3	73.0	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「読むこと」の領域で全国平均を下回ったが、他の領域では全国平均を上回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、5つの領域で全国平均を上回ったが、「漢字を読む」「説明文の内容を読み取る」「文学作品の内容を読み取る」領域については、全国平均を下回った。 情報と情報のとの関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題では無解答率が22.1と高かった。1年生も同種の問題において同様の傾向を見せている。各情報の関係を理解するために、整理をする活動や自分の考えが明確になるように話の構成を工夫する活動を、各学年段階で具体的に組み込み、充実させる必要がある。	漢字を読む	88.3	83.3	89.1	漢字を書く	76.1	66.7	70.6						
	基礎	76.0	68.6	73.4		文法・語句に関する事項	72.5	64.0	69.2		文法・語句に関する事項	72.5	64.0	69.2										
	活用	62.2	53.3	56.7		説明文の内容を読み取る	60.5	55.0	61.0		説明文の内容を読み取る	60.5	55.0	61.0										
	商業の特徴や使い方	80.5	73.1	78.3		文学作品の内容を読み取る	73.2	71.7	77.0		文学作品の内容を読み取る	73.2	71.7	77.0										
	情報の扱い方	56.1	50.0	52.8		調べたことをもとに書く	57.4	53.3	55.9		調べたことをもとに書く	57.4	53.3	55.9										
	我が国の言語文化	70.7	61.7	66.3		文章を書く	68.4	50.0	51.5		文章を書く	68.4	50.0	51.5										
話すこと・聞くこと	75.4	68.3	73.0																					
書くこと	63.7	51.4	53.4																					
読むこと	66.8	63.3	69.0																					

社会				佐伯市			目標値			全国平均						佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	46.1	46.0	45.2	問題 の 内 容 別 正 答 率	日本の地域的特色と地域区分	59.5	55.8	56.1	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎で全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、地理は全国平均を上回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、「日本の地域的特色と地域区分」「日本の諸地域」は全国平均を上回った。 「江戸時代」の内容で、徳川綱吉の政策について解答する問題の正答率は14.8と非常に低かった。歴史的事象や人物については、その名称だけでなく内容や関連する資料と結び付けて捉えさせ、より確実に定着させていく必要がある。 「複数の資料をもとに考察し、表現する」問題が3問出題されたが、いずれも無解答率が19.8、23.5、33.0と高かった。複数の資料から必要な情報を取り出し、整理や比較、分類などを通して、表現する場面を意図的に設定していく必要がある。	日本の諸地域	48.5	46.1	47.1	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	42.0	42.1	40.5						
	基礎	48.2	47.0	46.8		江戸時代	36.7	41.9	39.1		江戸時代	36.7	41.9	39.1										
	活用	40.1	43.1	40.9																				
	地理	52.9	50.0	50.7																				
	歴史	39.2	42.0	39.7																				

数学				佐伯市			目標値			全国平均						佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	48.2	52.8	50.1	問題 の 内 容 別 正 答 率	式の計算	50.2	52.0	50.1	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を下回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を下回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、「式の計算」のみ全国平均を上回った。 「1次関数」の内容では、何か月使おうとLED電球が蛍光灯より得になるのかを説明する問題で正答率が8.8、無解答率が56.2であった。グラフや表などの資料から、立式や説明のために必要な情報を取り出し、取り出した情報を比較したり関連付けたりして数学的な表現を用いて説明し合う活動等を取り入れていく必要がある。 「連立方程式」の内容では、方程式を解く過程を振り返り、事象に即して解釈し、数学的に説明する問題の無解答率が55.7であった。問題文に沿って言葉を文字に置き換える指導を丁寧に行い、成り立つ性質を生徒が見出す活動を充実させ、数学的な表現を用いて説明し合う場面を取り入れていく必要がある。	連立方程式	42.2	47.9	44.6	1次関数	44.5	50.7	46.7						
	基礎	53.6	57.5	55.4		図形の性質	65.8	66.7	66.1		図形の性質	65.8	66.7	66.1										
	活用	32.0	38.8	34.1		証明	58.4	61.7	62.7		証明	58.4	61.7	62.7										
	数と式	45.5	49.6	46.9																				
	図形	62.1	64.2	64.4																				
	関数	44.5	50.7	46.7																				

理科				佐伯市			目標値			全国平均						佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	58.4	55.7	55.3	問題 の 内 容 別 正 答 率	物質の成り立ち	67.3	67.3	67.5	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎、活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、多くの内容で全国平均を上回った。 「電流の性質」の内容で、回路全体の抵抗の大きさを求める問題は、正答率が27.9であった。直列、並列回路における合成抵抗の求め方を正しく理解させることが大切である。 「科学変化」の内容で、金属が別の金属に変わっことを調べる実験方法を記述する問題は、無解答率が24.6であった。実験結果をもとに考察する場面では、考察を説明したり、記述したりする活動を行うことが大切である。さらに、仮説を基にした実験の構想を行うなどの活動を授業の中で充実させていくことも大切である。	化学変化	56.6	56.6	49.9	化学変化と物質の質量	64.8	64.8	64.8						
	基礎	61.3	60.0	59.4		生物と細胞	67.6	67.5	64.0		生物と細胞	67.6	67.5	64.0										
	活用	52.4	47.0	47.1		植物のからだのつくりとはたらき	55.8	55.8	51.2		植物のからだのつくりとはたらき	55.8	55.8	51.2										
	エネルギー	48.6	48.6	44.8		動物のからだのつくりとはたらき	50.3	50.3	50.4		動物のからだのつくりとはたらき	50.3	50.3	50.4										
	粒子	62.0	62.0	59.2		電流の性質	48.6	48.6	44.8		電流の性質	48.6	48.6	44.8										
	生命	57.4	57.4	54.2																				

英語				佐伯市			目標値			全国平均						佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	49.4	50.6	50.1	問題 の 内 容 別 正 答 率	リスニング(内容理解)	81.2	80.0	82.6	<結果概況> ○教科の正答率は、基礎は全国平均を下回ったが、活用は全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「書くこと」のみ全国平均を上回った。 <課題と対策> 問題の内容別に全国平均と比較すると、「単語の並べ替えによる英作文」「3文以上の英作文」で全国平均を上回った。 「長文の読み取り」の内容で、メールを読み、その要点を捉えて自分の考えを書く問題の無解答率が42.8。対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書く問題の無解答率が39.8と高かった。まとまった英文を読んで概要や要点を把握し、書く活動につなげていくこと、また英語でのやりとりの中で単語ではなく、文として応答する(話す・書く)等複数の領域を関連づける活動を充実させ、計画的・継続的に指導していく必要がある。	リスニング(対話文の応答)	52.7	56.3	56.6	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	22.0	27.5	26.2						
	基礎	54.3	55.5	55.5		語形・語法の知識・理解	57.4	57.5	59.8		語形・語法の知識・理解	57.4	57.5	59.8										
	活用	40.3	41.4	39.8		語彙の知識・理解	84.4	82.5	84.5		語彙の知識・理解	84.4	82.5	84.5										
	聞くこと	55.4	57.8	58.5		さまざまな英文の読み取り	42.7	43.8	45.1		さまざまな英文の読み取り	42.7	43.8	45.1										
	読むこと	52.5	54.3	54.4		長文の読み取り	41.4	47.5	43.5		長文の読み取り	41.4	47.5	43.5										
	書くこと	38.8	37.8	34.9		単語の並べ替えによる英作文	35.3	32.5	29.9		単語の並べ替えによる英作文	35.3	32.5	29.9										
				場面に応じて書く英作文	20.9	27.5	25.7	場面に応じて書く英作文	20.9	27.5	25.7													
				3文以上の英作文	55.4	51.7	47.7	3文以上の英作文	55.4	51.7	47.7													